総務委員会視察レポート

視察テーマ

1.地下水保全対策の状況（神奈川県秦野市）
2.子どもの権利条例の制定（埼玉県北本市）
3.新たな公共交通の課題（茨城県取手市）
4.議会ハラスメント防止条例の制定（千葉県鴨川市）

総務委員会は8月5日から7日にかけて神奈川県秦野市・埼玉県北本市・茨城県取手市・千葉県鴨川市の4か所を視察しました。

秦野市では約7億5千万トンを涵養している地下水保全と過去の水質汚染の行政対応を伺うとともに復興した水源の視察を行いました。

北本市では子どもの権利条例の制定経緯について議会および行政での審議内容について意見交換を行い、広聴広報の取り組みである「北本子ども会議」の進捗状況を伺いました。

茨城県取手市では採算性があわないグリーンスローモビリティから新たな公共交通の模索状況を視察。鴨川市では議会ハラスメント防止条例制定の経緯について説明を受けました。

今回の視察を通じ町に取り入れるに相応しい点を見出し委員会からの提案につなげて参ります。

経済建設委員会視察レポート

視察テーマ

1.なとり臨空タウン構想について
2.半導体企業誘致におけるインフラ整備

経済建設常任委員会は8月7日から8日にかけて宮城県名取市、宮城県黒川郡大和町に視察を行いました。

名取市においては仙台空港線（アクセス鉄道）を起点に社せきのした地区と美田園地区で、地域ごとの発展の状況とその手法を視察しました。イオンモールの増設や宅地開発、商業施設開発など進められていました。

また、臨空タウンに関しては、根底に県のグランドデザインがあり、名取市はそれに準ずる政策になっているのではないかと感じました。

大和町に関しては、工業団地整備を大規模に整備されていました。

町中心部を若干離れた緩やかな山間地域の開発で、農業地域の外側という幹線道路とさほど離れていない地勢的にも開発が容易な地域と感じました。

町は道路の重要性を早い時期から認識され、結果として時代の波に乗る形に成ったと考えられます。企業も広大な用地を必要とする場合、問い合わせるのは県と思われ、ここも宮城県のグランドデザインの一翼を担っていると感じました。

文教厚生委員会視察レポート

視察テーマ

1. 子育て支援施設の整備（佐賀県基山町）
2. PFI事業による給食センター整備（福岡県久留米市）
3. 部活動の地域移行（長崎県長与町）

文教厚生委員会は7月29日から30日に佐賀県基山町、福岡県久留米市、長崎県長与町の3か所を視察しました。基山町では、町立の基山保育園と子育て交流広場を併設した「基山っ子みらい館」を訪問し、子育て支援施設の整備の概要と運営について説明を受け、施設を案内いただきました。

次に、久留米市では、PFI事業により整備された「久留米市中央学校給食共同調理場」を訪問しセンターの整備と運営について説明を受け、施設を見学しました。

長与町では、長与町教育委員会より中学校部活動の地域移行の取組について説明を受け、意見交換を行い、長与町の先進した取組を学びました。

今回の視察は、本町が今後取組んでいく事業であるため、大変有意義な行政視察となりました。また、基山町と久留米市においては所管課の職員も同席し、議会だけではなく町執行部も共通の課題を認識することができました。

広報編集委員会オンライン研修レポート

研修テーマ　2自治体とも議会だより編集について

1. 奈良県王子町　議会広報編集委員会
2. 鳥取県大山町　広報常任委員会

広報委員会は8月19日に奈良県王子町、8月20日に鳥取県大山町にオンラインによる研修を行いました。

王子町は全国町村議会広報コンクールで10位、大山町も同コンクールで3位受賞の実績があります。

王子町は見時の見せ方やレイアウトを工夫され、編集方針を町民の参加とし、報告書という観点ではなく、関心の高い案件に優先順位をつけ情報を整理し議会と町民それぞれの視点を掲載することで、より一層、手に取って読んでもらえる議会だよりへと変化しています。

大山町はデジタルツールを使い分けスムーズな編集作業を行い、編集方針を読みやすい広報誌、時代の潮流に沿った広報誌とし住民の声を積極的に掲載し読者の興味を引く見出しをつけるなどの工夫をされていました。

どちらも、ターゲットを全町民ではなく絞り込んでいた点、読んでもらわなければ意味がないという考えのもと編集されていた点、広報誌に書くことがゴールではなく住民に理解してもらうことを目指している点など、参考になる点が多くありました。